

2級第14回（2015年度前期）試験結果の概要（第13回試験との比較）

1 受検申込者数

- ・申込者数の合計は2667人で前回3237人の82.4%。
- ・学科試験受検申込者は、1508人で前回2887人の52.2%、前回より1379人減少。
- ・実技試験受検者は、2136人で、前回2429人の87.9%、前回より293人減少。

◎前回の試験で、学科試験一部合格者が1200人以上出たが、その多くが今回は実技試験だけを受検したため、学科試験受検者が減少した。

2 合格率

- ・総合合格率は、15.6%であり、前回（15.7%）と同じ。
- ・学科試験合格率は53.32%で、前回より5.53ポイント低下。
- ・実技試験合格率は17.56%で、前回より1.42ポイント低下。

◎学科試験の合格率が3回続けて低下した。

◎実技試験合格率が17%台となり、過去最低の水準になった。

◎実技試験は、6人に1人の合格とハードルが一段と高くなったが、学科試験も2人のうち1人しか合格しない。

3 受検資格別

- ・実務経験5年以上の受検者は、総合の合格率が14.0%、実技試験合格率が13.9%。
- ・標準資格者で実務経験3年以上の受検者は、総合の合格率が18.3%、実技試験合格率が17.1%。

◎実務経験5年以上による受検者は、総合合格・実技試験合格とも、平均よりも低い。

◎標準資格+実務経験3年以上の受検者は、総合合格率では平均よりも2.7ポイント高いが、実技試験合格率は、平均よりわずかに低い。

4 性別

- ・受検申込者の男女比は、男性が38.8%、女性が61.2%で、前回より男性の比率が0.9ポイント低下した。
- ・合格率は、男性が総合合格13.2%、実技試験合格12.4%である。女性が総合合格17.0%、実技試験合格15.1%である
- ・総合合格者の占有率は、男性が33.0%、女性が67.0%で、前回より女性の比率が4.6ポイント上昇した。

◎受検申込者と総合合格者の男女比で、ともに女性の占める割合が高くなっている。

◎女性の総合合格率と実技試験合格率が、男性よりも高い傾向が続いている。

5 実務経験

・実技試験の経験年数別合格率は、実務経験 3～5 年が 14.3%、6～10 年が 14.5%、11～15 年が 14.0%、16 年以上が 10.2%である。

◎実技試験合格において、実務経験 3 年から 15 年までは、合格と実務経験の長さとの間に、相関関係はない。

6 業種別

・実技試験で受検者が最も多い公務（1147 人）は合格率 15.1%、次に人数の多い教育・学習支援業（353 人）は 13.3%、その他サービス業（283 人）は 15.5%である。

◎実技試験合格者の平均 14.1%と比較すると、教育・学習支援業が 0.8 ポイント低くなっており、逆に公務が、1.0 ポイント、その他サービス業が 1.4 ポイントそれぞれ高い。

7 職種別

・実技試験で受検者が一番多いキャリア・コンサルタント（1207 人）の合格率は、15.5%、次いで人事・労務・能力開発（275 人）は 16.4%である。

◎キャリア・コンサルタントや人事・労務・能力開発というキャリアに関連する業務を担当している人の合格率が高い。